

年金 これからの

伸びる平均寿命

国民年金

「人生五十年」……戦前よく言われた言葉ですが、現在では一昔も二昔も前の言葉となりました。

日本人の平均寿命は、戦後急速に伸び続け、昭和五十二年には、男が七十二・六九歳、女は七十七・九五歳となり、西欧諸国を追い越し、世界一の長寿国となりました。

今日では、医学等の進歩により生まれた人の大部分が、『年寄り』と呼ばれる年齢まで、長生きできるようになっています。

長寿国となったことにより、国民総人口に占める老人の割合は、今後ますます高くなっていきます。

増える高齢者世帯

戦後は平均寿命が伸びてきたわけですが、年を取ってからの生活も、戦前と戦後では大きな変化をみせています。

戦前は、家長中心の家族制度でしたから、年を取ってからも、家の中では絶対的な力があり、尊敬

もされてきました。

しかし、戦後は家族制度が崩れさり、年寄りと、それを扶養する子との間に、いさかいがおこりやすくなっています。

また、親・子・孫という三世代が、同居できない住宅事情もあり、年を取ってからの生活環境は、非常に厳しくなっています。

このようななかで、生活単位は自然と、夫婦・夫婦と子供という世帯に移り変わってきており、若夫婦と別居生活をする老人世帯が増えています。

厚生省の発表しました、昭和五十二年度厚生行政基礎調査によりますと、六十五歳以上の高齢者だけの世帯が、全国に一二五万世帯以上もあり、昭和三十年当時比べて、四〜五倍にも増加していることが明らかになりました。

不安な老後

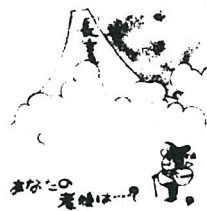
長生きできるようになったことは大変喜ばしいことですが、一概に喜んでばかりもいられません。年寄りと家族との別居生活者が

増えているため、昔のように「老後は子供が面倒をみてくれる」などと、のんきなことはいつていられなくなりそうです。

年を取ってからの生活も、自分の収入で暮らしていくことを考えていませんと、折角長生きできても、不安な老後をおくることにもなりかねません。

しかし、収入を得るといっても老人自らの力には、おのずと限界があります。

老後は年金で



やはりこれもアンケートの調査結果ですが、昭和五十年に総理府老人対策室が行ったアンケートの中に、「老後生活に見込まれる主な収入源」との質問がありました。それをみますと、「六十四歳までは夫婦で働らき、六十五歳を過ぎたら年金で生活する」と、答えている人がかなり多くみられました。

昭和三十六年四月に国民年金制度ができ、初めて商店や農業などの自営業者にも、年金の保障が得られるようになったわけですが、この調査結果をみますと、国民の年金に対する関心と期待の大きいことがうかがえます。

慶

弔



二月十五日現在受付 (敬称略)

◎お誕生

〈部落	赤ちゃん	父親 続柄
小川台	村越奈津江	重夫 長女
小田部	霞 名穂	武 長女
富下	加瀬真紀子	雅敏 長女
尾垂	加瀬 弘之	壽一 二男
新井	加瀬川智子	亘 二女
橋場	萩原 岩利	岩雄 長男
虫生	深田 恵	正一 二女
橋場	林 佐知子	正明 長女
小田部	遠藤 真	光夫 二男
長塚	吉田 和穂	光幾 長女
新井	萩原 直美	富夫 長女
新井	吉岡 鉦平	輝夫 長男
白磯	石橋 幸恵	登 二女
桑郷	森 さゆり	哲 二女
宝米	平野 敏男	正敏 二男
長塚	実川 和美	輝夫 長女

◎おくやみ

〈部落	氏 名	性別	年齢
原方	加瀬 嘉幸	男	79歳
橋場	越川 宗次	男	65歳
谷中	越川 つね	女	51歳
白磯	伊藤房次郎	男	82歳
篠本	大木秀一郎	男	85歳
宝米	鈴木 ます	女	75歳
白磯	向後 瀧蔵	男	83歳
古屋	伊藤 とく	女	77歳
白磯	河野太四郎	男	61歳

町の状況

〈2月1日現在〉			
男	5,779人	(-1)	
女	5,931人	(+10)	
計	11,710人	(+9)	
世帯	2,825	(+1)	
() 内は前月比			

◎お詫び

広報二月号、三面の納税相談日二月二日は、二月二十三日の間違いでしたので、訂正し、お詫びいたします。

◎結婚

〈部落	氏 名
橋場	横田 博 横田 壽子
虫生	長田 実 信田 静江